

# 課題解決に向けての 意見交換会報告書

—品川区議会と品川女子学院生徒—



令和8年1月30日（金）品川女子学院

区民と議会の交流会議

## 【開催経緯】

品川区議会では、「区民に開かれた議会」「区民に身近な議会」を目指す議会改革の一環として平成 28 年度より、年 1 回、品川区議会と品川女子学院の意見交換会を開催しています。

10回目となる今回も、1月30日に中学一年生の生徒と品川区議会議員で意見交換を行いました。

## 【開催概要】

日 時：令和8年1月30日（金）16:00～17:30

会 場：品川女子学院

参 加 者：品川女子学院生徒（中学1年生）、教諭

出席議員（区民と議会の交流会議<sup>※1</sup>所属品川区議会議員他）

：えのした 正人、大倉 たかひろ、まつざわ 和昌、澤田 えみこ、  
山本 やすゆき、ゆきた 政春、のだて 稔史、せらく 真央、西本 たか子、  
吉田 ゆみこ、高橋 伸明、やなぎさわ 聡、高橋 しんじ

テ ー マ：「課題解決に向けて」

※1 品川区議会では、平成 29 年 5 月より「議会報告会等準備会議（現：区民と議会の交流会議）」など 4 会議を立ち上げ、議会改革の取組みを継続しています。

## 【プログラム】

1. 開会あいさつ（区民と議会の交流会議サブリーダー えのした 正人）
2. 課 題 報 告（品川女子学院生徒）
3. 意 見 交 換  
6つのグループに分かれ、生徒・議員間で意見交換を行いました。
4. 感 想 発 表  
各グループ代表の生徒および議員が感想を発表しました。
5. 閉会あいさつ（中等部校長 神谷 岳）  
（区民と議会の交流会議サブリーダー 大倉 たかひろ）

## 【意見交換の内容および担当議員】

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| A 組) みんなが安心して歩ける街にしたい      | 担当議員：えのした、やなぎさわ |
| B 組) 店員に話しかけづらい            | 担当議員：まつざわ、吉田    |
| C 組) 観光客を増やして北品川商店街を盛り上げよう | 担当議員：澤田、せらく     |
| D 組) 子どもが遊ぶ場所が少ない          | 担当議員：ゆきた、のだて    |
| E 組) 通勤通学時の歩道について          | 担当議員：山本、西本      |
| F 組) 商店街秘密基地プロジェクト         | 担当議員：大倉、高橋（伸）   |

## 【課題報告の概要】

### A組) みんなが安心して歩ける街にしたい



私たちは、実際にフィールドワークをしてみて、「緑が少ない」、「道が狭くてがたがたしていて、特に夜は危なそう」、「人が少なく静かだった」ということを感じました。

実際の道を見てみると、デザインは良いなと思いましたが、夜に暗くなると、幼児や高齢者の方が歩いたときなどは転んでしまい、その際に、結構ざらざらしたところもある道のため、そこに膝などついてしまうと擦りむいて危なそうだなというのが私た

ちの意見でした。

また、まちの方にお話を伺ってみると、「人が少なくて活気がない」、「若い人があまりいない」、「道が危ない」、「自然が少ない」ということを問題に思っている方がいました。

そこで私たちは、みんなが安心して歩けるまちにしたいという目標を立て、安心感をつくるためには活気が必要だと考えました。

1つ目の解決策として、ウォーキングエナジーという仕組みを導入すると思いました。ウォーキングエナジーとは、人や物が歩いたり動いたりすることによって発電できるという仕組みです。一回一回で発電できる量は少ないのですが、人が歩くだけで発電ができるので、環境にもコストにも気を遣って発電することができます。

最初は、この仕組みがあったら面白いかもと思っていましたが、調べてみると、実際にロンドンのバードストリートというところに、この仕組みが設置されていることが分かりました。この仕組みを導入することで、環境に優しく、費用もあまりかからずに発電できたり、いろいろなことに使えるというメリットがあると思います。

2つ目の解決策は埋め込み式のライトです。床にライトを埋め込むことによって、景観を損ねずに、夜でもまちを明るくすることができます。

3つ目の解決策は木イルミです。木イルミとは、木にイルミネーションをつけてライトアップすることです。この取組によって、まち全体が明るくなったり、自然などの緑が増えたり、まち全体にフォトスポットをつけることによって活気が出るというメリットがあります。

また、この埋め込み式ライトや木イルミに、先程のウォーキングエナジーで発電した電気を利用すれば、少しでも環境に配慮しながら、まち全体を明るくすることができます。

この3つの仕組みをSNSなどで発信して、多くの人に品川区の魅力を知ってもらうことで、活気のあるまちになると思います。

## B組) 店員に話しかけづらい

私たちは、自分たちのまちを快適にするために、買物の場面に注目しました。そこで出たのが、店員に話しかけにくいということです。

その何が問題かと思う方も中にはいるかもしれませんが、お客さんが店員に話しかけづらいことで、まず欲しいものが見つかりません。欲しいものが見つからないとご飯が作れず、食品が取れません。そして家族に迷惑をかけたり、ご飯が食べられず笑顔になれない。最後には、自分やほかの人が嫌な気持ちになってしまうことが分かりました。これがお客さんのインサイト、本心と言われるものです。



果たして品川区のまちでもそれは同じなのかという疑問を抱え、私たちはフィールドワークに出発しました。複数の買物施設で調査をし、実際、商品の場所表示がなかったり、店員に話しかけづらいなどの問題がありました。そこで私たちは、品川区も自分たちの住むまちと変わらない問題を抱えていることが分かりました。

そこで私たちは、年齢、性別を問わず、多くの人が快適に買物を済ませられる解決策を、大きく2つに分けて考えました。

1つ目は、そもそも店員に話しかけないという方法です。その代わりに、店内商品の検索ができるアプリの導入を考えました。それによって商品の場所がすぐに分かり、効率的な買物をしたい人に役立ちます。例えば「ぽん酢」と検索すると、商品がある場所にピンが立ちます。

2つ目は、店員に話しやすくするという方法です。例えばお客様の評価を基にした優しさポイントの導入や、名札に自分の考えたニックネームをつけるなどです。このような方法で、店員に話しかけやすくするきっかけができると思います。

## C組) 観光客を増やして北品川商店街を盛り上げよう

私たちのテーマは、「観光客を増やして北品川商店街を盛り上げよう」です。このテーマを考えきっかけは、フィールドワークをしたときに、北品川商店街の活気があまりないと感じたからです。

フィールドワークでは、お茶とのかのりの専門店、若素園にインタビューさせていただきました。そのお店は、お店の方が、お茶の飲み比べで味や香りの違いを見分ける利き茶という大会で賞を取っており、自分に合ったお茶をセレクトしてもらえるなどの魅力があります。しかし最近、お店や観光客が減り、特に外国人観光客が1日1組ほどに少なくなっているとおっしゃっていました。

このことから推測されるインサイトは、わざわざ北品川商店街に行く理由がなく、インターネットで調べても強い目的が見つからず、気になったから行ってみようと思う決め手が弱いことだと考えられます。また若い世代は、SNSでよく見る場所や話題になっているとこ

ろを選びがちなのに対し、北品川商店街のような静かで渋い良さは流行や最新スポットでないため、なかなか見つけられにくいと考えられます。

そこで私たちが考えた、北品川商店街に観光客の方が少ない問題として、まちの魅力が発信されないと、さらに人が減るという悪循環が起きていることが挙げられます。人が減ると、SNSの投稿・書き込みが減り、情報が出回らなくなり、認知されず、さらに観光客が減るといった連鎖が起きてしまいます。



そこで私たちは、北品川商店街の魅力をもっと多くの方に知ってもらいたいと思い、品川駅に着目しました。品川駅の2020年から2024年の乗車人員推移を見てみると、年々、乗車人員が増えていることが分かります。しかし、品川駅に来て北品川まで足を運んでくれる観光客の方は少ないと感じています。なので、品川区を訪れる人にもっと北品川の魅力を知ってもらえるように、3つの解決策を提案します。

1つ目は、北品川商店街について知ってもらうことができ、魅力を伝えられるようなポスターを作ることです。具体的には、品川駅からすぐに足を運ぶことができるアクセスのよさや、昔ながらの風情があることをアピールするポスターを作り、品川駅に掲示したいと考えています。

2つ目は、若い方が興味を持つような企画を作成することです。例えば、「宿場町の味」×「現代アレンジ」の食べ歩き企画を行い、若者を中心に北品川商店街の情報を発信するきっかけをつくり、品川駅などに企画情報を掲載したいと考えています。

3つ目は、北品川商店街について知ってもらえるパンフレットを作ることです。日本語版と外国語版を作り、外国人観光客の方にも分かりやすいパンフレットにしたいです。また、このパンフレットには、昔の地図と現在の地図を載せて、北品川商店街の歴史を感じてもらえるようにしたり、商店街のお店に行ったらスタンプがもらえるスタンプラリーを載せたりして、観光客の方が楽しめるような工夫をしたいと考えています。

観光客の方々が楽しめるような工夫をすることで、北品川商店街の魅力をいろいろな人に知ってもらえたらいいなと思います。

#### D組) 子どもが遊ぶ場所が少ない

今回私たちは、「品川をもっと住みやすく快適なまちにしよう」というテーマで話し合いました。その話をする際に、私たちはデザイン思考を基盤としました。デザイン思考とは、多くの人の意見を聞きながらアイデアを頂いていく考え方です。品川女子学院生の全員がデザイン思考を学んでいます。

私たちの班は、ターゲットを3歳から16歳にして、北品川商店街を散策しました。その際に気づいたこととして、子どもの遊ぶ場所が少ないと感じました。また、シャッターが閉まっている店が多く、暗い雰囲気になっていたため、子どもが入りやすいような店が少ないと感じました。

そこで私たちは、子どもも過ごしやすい場所をテーマにしました。このテーマを考えたきっかけは、私たちが品川区で遊ぶ場所が限られており、またフィールドワ

ークをした際に、子どもが入りやすいような工夫が少ないと感じたからです。

そこで、「なぜ」を繰り返して、子どもが遊ぼうとしている場面をはじめとしたインサイトについて、班で意見を出し合いました。まず初めに、子どもが遊ぼうとしている。しかし、遊ぶ場所が限られる。なぜ遊ぶ場所が限られると困るのか。それは、飽きてしまい、外で遊ばなくなるからです。このように「なぜ」を繰り返した結果、外で遊ばなくなると家で遊ぶようになり、子育て世代への負担や、コミュニケーション能力の低下、そうすると男子と女子のフレンドがいなくなり、人口減少、世界が終わります。このように世界が終わると私たちは困るので、4つの解決策を考えました。

解決策1つ目は、公園にコンセントとWi-Fiを設置することで、ゲームでつながれるようにすることです。メリットは、コミュニケーション能力が低下していても、ゲームでたくさんの人とつながれることです。デメリットは、ゲームだけをやることになり、運動不足や、ゲーム以外のコミュニケーションを取らなくなってしまうことです。

解決策の2つ目は、月に1回程度、公園で無料で映画鑑賞できる設備を造ることです。メリットは、無料で映画を鑑賞できるので公園に行きやすくなり、子どもの遊ぶ場所が増えることです。デメリットは、映画鑑賞中は話すことができないので、コミュニケーションが取りにくくなってしまいます。

解決策の3つ目は、公園に目安箱を設置することです。メリットは、名前を出さずに投書することができるので、子どもも大人も自由に意見を言うことができます。デメリットは、投書された意見を全て実現できるわけではないので批判が出る可能性があり、目安箱の管理が難しいことです。

最後に解決策の4つ目は、二次元と一緒に遊ぶ場所をつくることです。メリットは、ゲームやアニメが好きの人でも、公園に来る機会が生まれることです。また、遊ぶことで運動不足が解消されます。デメリットは、費用が莫大にかかり、設置が難しいということと、子どもが戦隊ごっこやボール遊びをする際、その設備を故障させてしまう可能性があるということです。

このように、子どもたちの遊ぶ場所を増やすために様々な工夫や取組をすることで、この課題を解決できると思います。



## E組) 通勤通学時の歩道について



突然ですが、皆さんはこの写真を見てどう思いますか。とてもきれいで歩いてみたいと思いますよね。

私たちも学校周辺や北品川にこのような場所があるのかどうか、品川女子学院から北品川商店街までフィールドワークをし、探索しました。

そこで私たちが感じたことは、「下校するとき道が暗い」、「にぎわいが無い」、「気分が上がらない」、「歩いている人たちの顔が暗い」、「だから防犯面が心配

だし、行きたくなるお店がない」、「だからショッピングできない」、「街路樹も少ないし」。

そこで私たちは、実際に北品川を通学で利用していて一番身近な学生や社会人が通勤・通学する場面を取り上げました。さらに、私たちの意見だけではなく、実際に北品川を利用している人たちにもアンケートを取りました。この結果から、私たちだけではなく、多くの人たちが同じようなことを思っていることが分かりました。そこから、私たちは、北品川にはにぎわいが足りないという結論に至り、テーマをまちのにぎわいにしました。では、まちのにぎわいについて深掘りしてみましょう。

Q.「なぜ、まちのにぎわいが必要か。」

A.「北品川に来る目的が通勤・通学だけになってしまうから。」

Q.「なぜ通勤・通学しか目的がないのか。」

A.「周りにカフェやイルミネーションなどがいないから。」

Q.「なぜカフェやイルミネーションがないのか。」

A.「やってくれる若者が少ないし、古くからのポップな雰囲気が活かされていないからではないか。」

Q.「何でやる人がいないのか。雰囲気を活かしていないのか。」

A.「北品川を知っている人が少ないからだと思う。」

Q.「なぜ知っている人が少ないのか。」

A.「印象的なイルミネーションやお店がないし。」

「ループしているじゃん。結局はどういうことか。」

印象的なお店やイルミネーションがないという現状が、北品川に来たいと思わせないというインサイトにたどり着きました。

では、どうすれば北品川に行きたいと思ってくれるのかを、2つ考えました。1つ目は、イルミネーションなどの飾りつけを施すということです。デメリットとしては、電気代がかかる、季節ごとに替えたりするのが負担になる、安全面に欠けているなどがあります。しかしメリットとして、雰囲気が明るくなる、夕方の歩行が安全になる、ただの下校・退勤時間が楽しくなるなどがあります。例えば、北品川駅の工事パネルや、道端に植えてある植物、歩道橋などをイルミネーションするイメージです。

2つ目は、ブログまたはホームページを作るということです。デメリットとしては、ホームページを調べてくれる人がいるかどうか確証が得られないこと、作るのに時間がかかってしまうこと、イベントなどのときぐらいしか活用が難しいことなどがあります。しかしメリットとして、より詳しく北品川のことを知ってもらえ、興味を持ってもらえるということがあります。

まとめると、北品川をもっとにぎやかにさせ、よりよいまちにするために私たちが提案することは、イルミネーションなどの飾りを施す、ブログやホームページを作るということです。私たちは、これらを実行することで、よりよいまちになると考えています。

## F組) 商店街秘密基地プロジェクト

アクション。

-帰り道-

学生A：「ねえ、今日遊ぼう。」

学生B：「でも北品川に遊ぶ場所はくないか。」

学生A：「どうする。」学生B：「やめよ。」

学生A：「やめよう」。

-インタビュー-

学生A：「すみません。」

おじいさん：「はい、何ですか。」

学生B：「今、学校の調べ学習で、この商店街のいいところと改善点を聞いているんですけど、お話を伺えますか。」

おじいさん：「そうですね。いいところは交通の便がいいところですかね。改善点は昔ながらの店がどんどんなくなっているところですね。」

学生A：「お話、ありがとうございます」。

-学校へ帰っているとき-

学生A：「うーん、発表どうする。」

学生B：「どんどん昔ながらの店が取り壊されているというのはよくないから、発表に入れたほうがいいと思う。」

学生A：「でも、そのために私たちにできることがあるのかな。」

学生B：「うーん」。

サラリーマン：「そこのお嬢さんたち、僕は通りすがりのサラリーマンさ。そんなことより、はじめに、最近、商店街のお店が取り壊されていることは知っているかい。」

学生A：「前にインタビューで地元の人が言っていた。」

学生B：「確かに。」

サラリーマン：「昔はもっと商店街に活気があったんだ。だけど、どんどん人が原宿などに行ってしまうと、今では人があまり来なくなってしまうんだ。うう……。」

学生A：「大丈夫？」

学生B：「でも、それはそうだよね。」

サラリーマン：「グスン。」

学生A：「そうだ。私たちが人を商店街に取り戻してみよう。」

サラリーマン：「本当か、君たち。」

学生B：「うん、頑張ろう」。

学生A：「でも、そのために自分たちにできることは何だろう。」

学生B：「そのためには、まず若者をもっとまちに呼び寄せないとね。でも、そのために必要なものは何だろう。」

学生A：「全世代の人々を呼び寄せるとなると、いろいろな店を増やしたりする必要があるよね。そうすると、地元の人と言っていたとおり、どんどん昔の店がなくなってしまう。」



学生B：「じゃあ、昔ながらの文化を残しながら、人がやってくるようなイベントを考えるのはどうかな。」

学生A：「例えば昔の写真を貼って、物語の壁をつくって展示するというのはどう。これだったら、文化を残しながら商店街を守ることができるね。でも問題は、人をどう呼び寄せるかだよ。」

学生B：「じゃあ、地元の小物を散りばめた宝物探し部屋とか、期間限定ポップアップとかイベントを開催したりして、周りの人にも興味を持ってもらうのはどう。」

学生A：「ありあり。あと、壁一面に絵を自由に描いていいとか。」

サラリーマン（守り神）：「もう大丈夫そうだね。あ、そうそう、言い忘れていた。僕は通りすがりのサラリーマンではなく、実はこの北品川商店街を守る守り神さ。商店街がよりよくなるのを待っているよ。さらばだ。」

それでは説明に移ります。

私たちが考えた解決法は、商店街秘密基地プロジェクトです。商店街秘密基地プロジェクトとは、空き家を改造して、若い人と商店街をつなぐ秘密基地をつくることです。ここでは昔の写真を貼って、物語の壁をつくります。そして、地元の小物が散らばった宝探し部屋をつくり、壁一面に落書きができるようにします。これで若い人が来るだけでなく、家族などで来ることによって人が増えると思います。

## 【意見交換後の感想】

### A組) みんなが安心して歩ける街にしたい



#### ○品川女子学院生徒

私たちは今の話合いで、歩いて発電すると言ったウオーキングエナジーについて、もう少し議論させていただいて、まず品川女子学院生がいつも使っている歩道橋があるのですけれども、そこにウオーキングエナジーをつけることによって、1学年200人だから1,200人が往復で使ったら、2,000人超えがそこで発電できることになるので、品川女子学院からウオーキングエナジーを広めていくには、そういう案がいい

なというふうになりました。

また、コストの面については、詳しく私たちの班では話し切れなかったもので、その辺もよく考えて、どうやったら効率よくウオーキングエナジーを利用していけるかというのを考えました。

あとは、今日発表できなかった分のアイデアが、ちょっと奇抜なのですが、ガードレールに鏡をつけるという案があって、その鏡が、地域の人にお話を伺ったときに、「若者はいいな」と言っていて、だから、どうやって作るかなどはまだ具体的に分からないけれども、若く見える鏡をつけるという案が私たちの中に出ていて、あとウオーキングエナジーと

少しかぶってしまうのですけれども、車が走ったりすると、それで音楽が流れる道路があって、そういうものを北品川で導入できたら、さらによくなるかなと思いました。

### ○やなぎさわ議員

ディスカッションではものすごくいろいろないい意見が出ておりまして、まさにウォーキングエナジーというのが、私自身も全然知らなくて、えのした議員も知らなかったのですけれども、歩くことで発電するというので、それを使いながら、木のイルミネーションや埋め込み式のライトというものを、発電を使って照らすということで、非常にいい循環だなと思いましたし、先ほど歩道橋の話もありましたけれども、そうやって話題をつくる、そしてそれをSNSで発信するということによって、たくさんの人にまちに来てもらう、北品川商店街に来てもらうということで、それがにぎわいをつくって、ひいては安心して歩けるまちにつながるのではないかなと思いました。非常にいいお話を聞けました。

### B組) 店員に話しかけづらい

### ○品川女子学院生徒

私たちが考え、議論で提案などをやった中では、先ほど発表した、スーパーなどでレジの前や店内に商品検索のものを入れたり、ほかにもニックネームをつけたり、そういうもので会話などをより増やしたりというのも大切だと思いました。そこから、今の北品川商店街に残る財産や歴史などと新しい文化などの融合を大切にしていくという面で、どうしたらそれを実現できるかというのをたくさん考えて、この場では言えなかったのですけれども、いろいろな世代や外国人の方などもそうですけれども、そういう人たちにも響くような案を、もう少し出していけたらというのが出ました。



### ○吉田議員

今の発表で全てを表しているかなと思うのですけれども、皆さんの、北品川を盛り上げていきたいという思いがとても強く、いろいろなアイデアが出てすばらしいなと思いました。近隣の県からいらっしゃっている方もあって、そこと歴史的なところでつなげられて、両方が盛り上げられたらいいなというところまで話が広がって、とてもすばらしいと思いました。

本当に、もう少し具体化すれば、これは品川区への提案にも、議員としてもつなげられるなというような有効な話合いができたと思っています。

### C組) 観光客を増やして北品川商店街を盛り上げよう

### ○品川女子学院生徒

私たちは、いろいろな話合いを通して、まず品川区をまたいでやることで、たくさんの人

を連れてくるということができると思いました。また、北品川商店街にはレストランが結構あるのですけれども、それより食べ歩きのほうが楽し、たまにベンチがあるととっても楽しだと思いました。学校でやっている企業体験プロジェクトを北品川商店街でやることで、興味を持ってくれる人が増えるのではないかなと話合いました。あと、歩道橋から日の入りが見えるというポスターを作成して、人気のある品川駅などに掲示することで、人がこちらに流れてくるのではないかなと思いました。

## ○せらく議員

テーマとしては、観光客を増やして北品川商店街を盛り上げようということでした。プレゼンテーションでも、解決策なども出していただきましたが、主にはどうやって北品川商店街に人を呼び込んで盛り上げていくか、そして、訪れた人がどのようにして楽しんで、また来たいなと思っていただけるかといった軸を基に、すごくたくさん意見を頂きました。本当に活発な意見を得られたと思います。

最後にも発表の中で言っていただきましたが、3年生から文化祭で株式会社を立てて店舗経営みたいなことをするというお話を聞いたのですけれども、すぐやりたいと、すごく意欲的におっしゃっていたので、もう少し時間はかかるかもしれないのですけれども、そういったことも体験できる。そして、それがまちづくりにもつながると、本当にとってもいいなと思いました。また、近隣の中学校なども連携できるというのではないかなということもお話しさせていただきまして、本当に活発な意見をありがとうございました。



## D組) 子どもが遊ぶ場所が少ない



## ○品川女子学院生徒

まず私たちの班は、子どもの遊ぶ場所が少ないというテーマでやったのですけれども、それ以外に何のテーマがあったのかという話になって、北品川商店街の道がめちゃくちゃ狭いなと思って、トラックがよく路上駐車していたりして、すごく狭かったのと、北品川駅の電車のホームがめちゃくちゃ危ないなと思って、柵というかホームドアがなくて、毎回、毎朝、品川女子学院生がいっぱいいると思うのですけれども、そのときに電車と接触したり、あと電車

とホームの間が大きい、私の友達に2人ぐらい、そこから足が落ちてしまった人がいるのですけれども、そういう危険性もあるので、そこをテーマにしたかったのですけれども、私たちが北品川商店街周辺を散策する際に、シャッターなどがいっぱい閉まっていて、子どもが入りにくい場所が多くて、それでたどり着いたのが公園だったので。そういう場所が

増えればいいのではないかと、こういうテーマになったというのを話し合いました。

あと解決策に、二次元と遊ぶという解決策があったのですけれども、それについて、少し違う考え方なのですけれども、北品川などのキャラクターをつくって、そのキャラクターをアニメやVTuberとコラボできたら、最高なのではないかなと。

あと、映画鑑賞の解決策に関して、税金などをみんな払っているではないですか。それを楽しいことに使ったり、映画などを無料で子どもが見られるようにするということがいいと思いました。

## ○ゆきた議員

D班のディスカッションの中で感じたのは、自分たちの足で歩いて、自分たちの目で見えて判断して提案しているというのが、本当に素晴らしいなと感じました。

もう一つが発想で、公園で無料で映画を見られるとか、あと二次元で公園で遊べる場をつくるというのが、本当に夢のある斬新な発想で、こういったことが本当に素晴らしいなと思いました。こういった発想などを私たちもしっかり受け止めて頑張っていきたいと思います。

## E組) 通勤通学時の歩道について

### ○品川女子学院生徒

私たちは、北品川のまちなどの周辺が全体的に暗いということと、にぎわいが少ないということの問題点として考えて、まちのにぎわいというのをテーマにしたのですけれども、それで、イルミネーションなどを施すということと、ブログやホームページを作るという解決策を出して、その解決策はすごく実行しやすくいいという意見を頂きました。

問題を見つけた際に、私たちの意見だけではなく、実際にその地域にいる方たちの意見や考えをもう少し取り入れて、その人たちがよりよい気持ちになるということをゴールに問題提示をして、もっと新たな視点で考えていくということが大切だというお話を頂きました。

解決策を、今、実行しやすいと言ってくれたのですけれども、実行しやすいのもいいけれども、もっと複雑なアイデアにして、もう少し具体的に細かくデメリットやメリットを考えて、さらに前に進めていくといいという意見を頂きました。



### ○西本議員

今のご説明のように、素晴らしいですね。本当に私たちは全然なっていないなと、今、非常に反省いたしました。

まず、このテーマを聞いたときに、私は不思議だったのです。そうしたら、やっぱり常に問題意識があったということなのです。この授業をする以前に、問題意識をやっぱりいろいろそれぞれ持っていて、話の中で、「こうだよな」ということでテーマが決まったという。多分、ほかのチームもそうではないのかなと思うのです。それで、実行可能なものもたくさん

ありましたので、より深く、地域の方などに提案して、「実際にできるといいよね」、「そこまで深められる内容だよね」という話がありました。

私たちがやっている仕事と、今まさに皆さんが学んでいることは同じだよという話で、やはりまちづくり、わくわくするまちづくり、若い方からのご意見というのは非常に大切だなと思っております。これからも、テーマがいろいろ変わってくると思うのですが、それを大切にして、皆さんが実際に本当に自分たちの意見を実現できるということを、私たちもお手伝いできたらいいなと思っています。

## F組) 商店街秘密基地プロジェクト

### ○品川女子学院生徒

私たちが考えたのは商店街秘密基地プロジェクトというテーマで、その中で議論をしていくにつれ、演劇の中にもあった、壁一面に落書きをするという内容を、落書きではなくアートとして捉えることによって、参加することもできるし、見てSNSなどに投稿することもでき、それによって、どんどん、壁一面のアートが広がって、活気が出ればいいなという案が出ました。

また、宝探し部屋というのも、空き家が商店街にあるので、その部分を改造することによって、部屋を活用することができればいいなと考えました。



### ○高橋（伸）議員

今、生徒から発表がありましたように、商店街の秘密基地という部分で、落書きというのをアートに変えていきたいというのが1つ。それで、今発表があったように、どこの商店街も空き家が多いのです。私も旗の台にある商店街の中でお店を構えておりますが、やはり空き家の店舗をどういうふうに有効活用したらいいのだろうか。今日の中ですごくいろいろな意見が出て、私も、「これもいいな」とか「そうだね」という

のも確かにありました。

それで、発表の演劇はすごく皆さん上手で、後ろのほうから演劇も楽しませていただいたのですが、最後に、いろいろ商店街のお店に行って聞き取りをして、商店街の皆さんの意見を聞いたと思うのです。これはぜひ、今後また改めてその店舗に行って、今回こういう意見交換がありましたというのも、報告を兼ねてやっていただくと、これからまた品川女子学院と商店街との関わりもできてくると思うので、ぜひそこはよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 【今後に向けて】

当日は、参加した品川女子学院の生徒32名からタブレット端末を用いたプレゼンテーション形式で課題の報告を受け、課題に対してとても活発な意見交換を行うことができました。また、意見交換会后、生徒の皆さんへ実施したアンケートでは、たくさんの感想をいただきました。今回、意見交換を行った各課題について、さらに調査・研究が進められ、生徒の皆さんが地域ひいては社会に貢献できる人材として大きく成長されることを楽しみにしています。

品川区議会は、今回の意見交換会でいただいた、若い世代の方の貴重なご意見を真摯に受けとめ、こうした取組みを継続的に行い、引き続き区民に「開かれた議会」、「身近な議会」を目指して活動してまいります。